

射水市総合計画審議会 第1回未来創造部会 会議録

○日 時 令和4年2月15日(火) 午後7時～8時35分

○場 所 射水市役所大島分庁舎3階大会議室

○出席者

(委員)

明石あおい、朝倉あゆみ、飯山進(リモート参加)、荻浦明希子(リモート参加)、樋上正之、二川由利子、松本三千人、松本吉晴、宮城克文、宮田妙子、宮田雅人、大西宏治(オブザーバー)、鈴木真由美(オブザーバー、リモート参加)

※欠席委員

なし

(当局)

現地参加

園木議会事務局長、小塚企画管理部長、一松財務管理部長、桜川市民生活部長、小見福祉保健部長、夏野会計管理者(会計課長)、原教育委員会事務局長、吉岡監査委員事務局長、荒谷議会事務局次長(議事調査課長)、杉本企画管理部次長、長谷川財務管理部次長、塩谷市民生活部次長、北福祉保健部次長、久々江教育委員会事務局次長(生涯学習・スポーツ課長)、杉高教育委員会事務局次長、菅原未来創造課長、盛光政策推進課長

リモート参加

森田人事課長、作道総務課長、坂井財政課長、佐藤資産経営課長、高橋課税課長、板坂収納対策課長、松下地域振興・文化課長、田中市民課長、大居子育て支援課長、中川学校教育課長、明野監査委員事務局次長

1 開会

2 部会長あいさつ

3 議事

(1) 各部会の所管事項及び日程・協議事項について

(2) 政策ごとの課題の整理と主要施策(案)の検討

政策推進課長

※資料1・2に基づき説明

部会長

皆さんには2つの観点を中心に意見を頂戴したい。1点目は基本方針の構成や考え方について。たたき台では4部構成となっているが、基本方針につながる政策も含め、この構成が適切かどうか。2点目は政策ごとに課題を踏まえた施策が記載されているかどうか。抜け落ちている観点や施策はないか、ということについて発言をお願いしたい。

委員A

目標人口の根拠が記載されているが、この表現でどこまで理解が深まるのか気になる。審議会委員の皆が共通認識できるよう目標人口についての説明をお願いしたい。また、富山県では、コロナ禍で外国人の転入が減ったことが社会動態の人口減につながっているという見方をしている。射水市の人口ビジョンでは伸びているという表現になっているが、2年間のコロナ禍でおそらく減っていると思う。そうい

ったことも踏まえて、目標人口の内容がわかるよう説明の機会を持ってほしい。また、今回の案では 62 施策と、第 2 次の 49 施策から増えている。施策は増やす方向なのか。

企画管理部長

目標人口について、国立社会保障・人口問題研究所が平成 30 年に発表した推計では、令和 42 年の射水市の総人口は約 61,800 人となっている。射水市の人口ビジョンはこの推計に対して人口減少を抑制し、令和 42 年に 72,000 人の人口を確保したいとの目標を掲げている。今回掲げている目標人口は、これを総合計画最終年度である令和 14 年度時点で切り取った数字となる。

なお、令和 2 年の国勢調査は 90,742 人となっており、人口ビジョンで掲げている数値をわずかに上回っている。目標人口の考え方は、自然動態と社会動態を改善することが大切だと考えており、合計特殊出生率の上昇と純移動数の増加を目指している。

政策推進課長

施策数については、ありとあらゆる分野において精査したものを当て込んでいる。この数字が妥当かは今後の審議により調整したい。施策数にはこだわっていない。

委員 A

私自身も施策数にこだわっているわけではない。これからの審議を踏まえ、変わり得るか確認したかった。目標人口については、外国人の転入数が社会動態に影響していると思う。施策に占めるウエイトも変わってくると思うので、外国人対策を考える必要がある。外国人対策は文化の多様性などに関わってくるので、射水市の特徴を持たせていく施策につながると思う。

部会長

おそらく他の部会でも同じような議論が出てくると思うので、各部会の連携を進め、計画に反映できればいいと思う。

副部会長

射水市はイスラム系の人が多い。多文化共生においても、射水市ならではのものを構築できれば魅力的になる。コロナ禍で一時的に外国人人口は減っているが、政府が出入国の窓を開ければ留学生が大量に入ってくる。県・市レベルでできることではないが、早く窓を開けてほしいと思っている。

委員 B

基本構想の構成はこのような形でいいと思うが、前回の全体会の議論であった縦串、横串の話で、定住人口・交流人口のキーワードが全体を貫くものとしてあった方がいいと思う。すべての施策に定住人口・交流人口の考え方や視点が求められていると思う。○人定住、○人交流など、インパクトやメッセージ効果のある言葉を発することができれば伝わると思うので、検討していただきたい。また、交流人口の定義、考え方があって良いと思う。

部会長

目標人口、定住人口、交流人口を念頭においた議論ができればいいと思う。

政策推進課長

定住人口、交流人口、関係人口を捉えながら大きく発信していくという意見が、前回の安全安心部会であった、構成、見せ方の再検討につながっていくと思う。市民目線で伝わるような見せ方を工夫したい。

委員 C

資料の赤字と青字になっている部分について、第 2 次総合計画にないものが赤字で、よりブラッシュアップするのが青字となっているが、黒字の事項は現在できているという認識か。また、赤字、青字はどのような根拠なのか。わかる資料を出していただきたい。

政策推進課長

なぜ赤字、青字になっているかについて資料として次回提出する。黒字については何もしないわけではなく、一定程度効果があり継続的に取り組むべきものと考えている。

部会長

最初をお願いした 2 つの観点以外についても、付箋紙を使って自由に発言、議論していただきたい。

委員 D

私の子どもが通っている小学校には外国籍の子どもが多い。そういった子ども達への学習支援が行き届かないという現状があるので、学校教育と多文化共生を絡め

たようなものがないかと思っている。また、G I G Aスクール構想についていけるかということも心配しており、苦慮している子ども達に手を差し伸べる施策があるといいと思う。

委員 A 12 ページにある「2. 空き家の有効活用」と「4. 移住・定住の促進」にある空き家の活用は明確に区分できるのか、考えを聞きたい。また、2 ページの「関連データ等からみる課題・特徴」に「全国・県と比べて核家族世帯、共働き世帯の割合が高い」とあるが、なぜ射水市では割合が高いのか、そのことをどのように捉えているのか、どの分野でどのように施策展開していくのか、考えを聞きたい。

企画管理部長 空き家の活用の違いについて、「2. 空き家の有効活用」の空き家活用は大きな意味での空き家の有効活用、あるいは空き家の適正管理の視点で考えている。「4. 移住・定住の促進」にある空き家の活用は、空き家活用を含めた移住定住の促進という分野で整理している。密接に関係している部分になるので、表現の仕方、施策への反映の仕方について工夫したい。また、「全国・県と比べて核家族世帯、共働き世帯の割合が高い」については、市町村合併以前から各自自治体が行ってきた、宅地供給施策の結果だと個人的には感じている。今後の施策については、核家族世帯、共働き世帯の割合が高いことをポジティブに捉えながら施策展開していくべきだと感じている。

委員 E スポーツを通じて地域が活性化できるよう、地域の方と何かできればと思っている。

委員 F 県内では若い女性の転出超過が深刻となっている。働き手不足、顧客減少、魅力の減退につながり、それがさらなる転出超過につながるという悪循環になることへの危機感を持っている。4 ページにある「女性が活躍できる社会環境づくりの推進」については、雇用環境に限らず、もっと広い意味で書いてあるという認識でいいか。県では、女性活用を進めるにあたり、女性活躍は企業の成長に結びつくという観点で企業に働きかけていきたいと考えている。射水市ではどちらかという、女性の活躍が経済成長につながるというより、女性が働きやすいような雇用環境の整備という方向性か。

市民生活部長 4 ページにある「女性が活躍できる社会環境づくりの推進」については、広義の意味での普及啓発を図るところに力点を置いている。男女共同参画にかかる施策の進行管理もある。一方、10 ページにある「雇用対策の充実と職場環境の向上」については、商工事業者に向けた働きかけを進めていくという建て付けとなっている。

委員 F 女性が働きやすい環境づくりはベースとなる観点だと思うが、もう一步踏み込んで、女性の持つ力で射水市をさらに成長させるという観点の取り組みもあるといいと思う。

部会長 これについては、次の方策、施策に取り入れていくという形で考えられればと思う。

委員 B ベイエリアを中心としたメインの観光資源だけではなく、周辺の渋いところも含めて観光振興に盛り込むべきだと思う。コロナ禍でマイクロツーリズムの需要も高まっており、渋いところの掘り起こしやブラッシュアップの気運を高め、受け入れる体制づくりを進めるべき。

また、陸の玄関口と言われている小杉駅に、人が出入りするだけでなく、情報の出し入れ、発表の場、人と人とを結び付ける機能、行政サービス、商業施設など、様々な機能を持たせることで、地域にある様々な課題が解決できるのではないかと考えている。都市計画マスタープランや小杉駅周辺のまちづくり基本構想を反映させる形で記載するべきだと思う。

各部会の情報共有が大事だと思う。また、結果報告書にあるメール等の意見は市民の意見だと実感している。夜間救急の設立はあちらこちらのグループで話題に挙がっており、そういったことの進捗状況が市民の耳に入っていない。途中経過などを市民に情報発信すれば、市民からの協力も得られるのではと思った。また、少子化・高齢化をワンセットで考えていけたら良いと思う。子育て支援の活動には地域

の力が不可欠である。委員の中だけでなく、市民にもわかりやすく提示してもらいたい。

委員C

女性の働く場をどうするかという話ばかりだが、女性の働き甲斐、キャリア教育、能力開発も力を入れていかなければならないと思う。2ページにある「希望する結婚・出産をかなえるための支援の充実」にもつながり、自信を持って女性として家庭に入る支援も大事である。また、12ページに「空き家の適正管理及び有効活用の促進」、「マッチングの充実による空き家の活用」とあるが、本当は空き家になる前の段階での対策が必要である。町内会など地域のネットワークでは空き家の把握は難しく、把握したところで活用まで中々結びつかない。コミュニティ施策と絡めて何かしてほしい。

部会長

本日いただいた意見、付箋紙に書いていただいた意見については、次回の部会での協議資料に反映する。次回資料への反映については部会長・副部会長に一任でよろしいか。

(異議なし)

今日発言できなかったことや、後日気づいた点など、意見がある場合、随時、事務局へお送りいただきたい。

4 その他

部会長

最後に、今後の開催日程等について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

第2回部会は4月の開催を予定している。また、第3回総合計画審議会は5月に予定しており、会議日程は調整の上、改めて案内する。

5 閉会

以上